

令和二年三月吉日初版作成

進化する感謝行

高嶋善三郎

目次

- 言葉の中でもっとも善い言葉・・・・・・・・・・・・・ 3
- 奇蹟の体験につながる感謝行・・・・・・・・・・・・・ 3
- 愛のひびきが、宇宙に溢れ出でる・・・・・・・・・・・・・ 5
- 進化する感謝行・・・・・・・・・・・・・ 6

お願い

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。例えば、この点について分かりにくいか、どの点が心に響いたとか、新しい疑問があるなど、何でも結構ですので、お聞かせください。また、送られてきた資料が次回以降不要の場合は、次のケータイのSMSか、アドレスにご連絡ください。

(ケータイ) 09033466619

(アドレス) zensan@peach.ocn.ne.jp

言葉の中でもっとも善い言葉

感謝の大切なことは、五井先生から教えて頂いているところですが、何故そうなのかを五井先生のお言葉（『白光誌から』に整理されているもの）を通して確認することによって、感謝の在り方をより深めることができるのではないのでしょうか。

五井先生は言われています。感謝というのは、相手と一つになる気持ちであり、それは業と業とが一つになるのではなくて、光と光、本心と本心とが一体になり、愛の姿が現われるのである。つまりそこに神さまが現われ、しかも神さまのみ心の中に昇ってゆくというのが、感謝なのである。そして神に感謝し、全ての物事、事柄に感謝するそういう心は、すでに祈り心と等しいものであると。

「人間にとって感謝し合う心は尊いことであるし、真理が自然に現われ神のみ心が自ずと現われる、大事なことである。」（1960年10月8ページ）

「感謝というのは、どういう気持ちかというのと、相手と一つになることである。愛の現われである。相手と一つになり、しかも神さまのみ心の中に昇ってゆくというのが、感謝なのである。

誰々さんありがとうございます、と言う。また、ありがた

いなと思う。そうすると、その人、あるいは物と一体になるわけである。どのような一体のなり方をするかというのと、業と業とが一つになるのではなくて、光と光、本心と本心とが一体になるのである。ということとは、そこに神さまが現われるということである。神さまは光ですから、感謝は光なり、ということになるのである。」（1968年1月25ページ）

「言葉の中でもっとも善い言葉は、神さまを初めとして全ての感謝の言葉と、世界人類の平和を祈る言葉である。」（1968年10月14ページ）

「神に感謝し、全ての物事、事柄に感謝するそういう心は、すでに祈り心と等しいものである。」（1971年12月9ページ）
「感謝の心は愛の心とならべて、人間生活を立派な平和なものにする、根本の心なのである。」（1978年6月5ページ）

奇蹟の体験につながる感謝行

私たちは、常に守護霊に力を添えている守護神と、一人の肉体人間に専属しその主運を指導する各正守護霊と、おおむね、正仕事についての指導を受け持つ副守護霊によって守られています。

直感とか、インスピレーションとかいうのは、これら守護霊からくる指導の念であり、普通は自然的行動のようにおこなわれていると言われています。

そして守護霊守護神に感謝することの大切を説かれてます。何故守護霊守護神に感謝しなければだめかと思われたかという、五井先生が神さまと一つになった時に、守護霊守護神の涙ぐましい働きを知ったから。即ち霊の方では眠らないで働き放しなのです。一生懸命業をかぶっては、苦しくなると滝へ行って、神さまの世界でもみそぎがあるからやって又来ては守り一生懸命していることが分かったからと言われています。

そして肉体人間の方で守護の神霊への感謝をつづけることによって、どれ程守護の神霊の守りの力を強めるかということ、多くの人々の奇蹟の体験となって、積み重ねられていっているのです。

また、現在では肉体人間の波動が、霊的波動にかなり近づいている一方、無限に微妙な神界の波動が、守護神守護霊と次第に波を粗くして肉体人間の波に合わせて来ており、肉体人間の方から常に守護の神霊への感謝行をつづけていけば、守護の神霊の波動と肉体人間の波動とが、全く一つになり得る状況にあります。

そうしたことが完成された時、その人の本心は全く開発され、神人といわれ聖者といわれる神我一体の人になり得て、神通力を自己のものとする事が出来るようになりますと言われているのです。

「現在では肉体人間の波動が、霊的波動にかなり近づいているのである。」

無限に微妙な神界の波動が、守護神守護霊と次第に波を粗くして肉体人間の波に合わせて来ていますので、肉体人間の方から常に守護の神霊への感謝行を続けていけば、守護の神霊の波動と肉体人間の波動とが、全く一つになり得るのである。

そうしたことが完成された時、その人の本心は全く開発され、神人といわれ聖者といわれる神我一体の人になり得て、神通力を自己のものとする事が出来るようになるのである。」

(1960年1月11ページ)

「私が神さまと一つになった時に、こうやってみると守護霊守護神が涙ぐましい働きをしている。霊の方では眠らないで働き放しなのであるから。それで一生懸命業をかぶっては、苦しくなると滝へ行って、神さまの世界でもみそぎがあるから。やって又来ては守り一生懸命しているわけ。」

それをこっち(肉体人間)は少しも感謝しない。これはまず第一番に守護霊守護神に感謝させなければだめだと思ったのである。」(1961年3月24ページ)

「肉体人間の方で守護の神霊への感謝をつづけていることが、どれ程守護の神霊の守りの力を強めるかということは、多くの人々の奇蹟の体験となって、積み重ねられていっているのである。」(1962年9月9ページ)

「守護霊に感謝し、いつも心を下座につけ、柔和な心になって明るい心になって、神さまに感謝しすべてのものに感謝し、もし消えてゆく姿があったら、これで過去世からの業が消えて本

心がますます開いてゆくのだと、守護霊守護神に感謝し、あらゆるものを感謝と希望の方向に向けてゆく。

そういう道が平凡のようだけれど、すばらしいのである。」「(1966年5月21ページ)

「積極的に神さまありがとうございますと感謝すれば、お祈りすれば、想念停止とか空とかをとび越えて、神さまと一体になるわけである。」「(1974年9月22ページ)

愛のひびきが、宇宙に溢れ出でる

私たちは、地球感謝行において、周囲の万物とその背後で働かれる神々に、人類を代表して感謝させていただいています。

五井先生は、次のように言われています。あらゆるものに感謝することは、簡単に実行できる愛行、祈りの行である。それは、何故かと言えば、この感謝行によって神のみ心である宇宙法則の波、生命の本源のひびきと一つになり得るからである。

この感謝行を横にひろげてゆくと、人類の大願目達成の人類波動の調整というべき世界人類の平和を祈るという事になる。

神との一体化を求める宗教の道において終始必要なのは、神や、空気水等の自然現象、動植物、人々等あらゆるものに対して、日々瞬々感謝の心を失わぬという事であり、これこそ、神との一体化をなし得る最大の行であり、人類進化の根源の心な

のである。

宗教の道を志さず者は、率先してこの感謝行に生きるべきで、その他のことは全て枝葉末節のこととも言えるのである。

宗教的な深い学問も様々な行もすべて、常にこの感謝の心が自ずと生まれ出でる境地、即ちそこから神のみ心の愛のひびきが、宇宙に溢れ出でる為のものであると言われています。

「初めから神とか仏とか想えぬ人たちは、まず自己を生かしてくれている四囲の万物に感謝することである。

空気、水、食物、大地、太陽、両親、兄弟姉妹、先生、友人、すべてが自分を育くみ力づけてくれているのであるから、こうした周囲の万物に感謝するということは、実に当り前のことなのである。

そうした感謝の中に、神仏へのご恩報じが自然と行われているのである。」「(1956年2月23ページ)

「あらゆる事物事柄によって、人間をこの世に生かしている大生命、即ち神の恩恵こそ人間にとって最大のものであることは、あらゆる事実によって証明されているのである。

それ故神への感謝と万物への感謝がなければ、この世界は成り立ってゆくわけが無いのである。」「(1962年3月7ページ)

「宇宙法則、生命の法則にのってゆく為には、神への感謝万物への感謝ということが必然的に必要なものであり、この感謝行によって神のみ心である宇宙法則の波、生命の本源のひびきと一つになり得るのである。」

これを宗教的にいえば祈りという事になり、この感謝行を横にひろげてゆくと、世界人類の平和を祈るといふ事になる。

世界人類が平和でありますようにという祈り言は、人間一人一人の感謝行でもあり、人類の大願目達成の人類波動の調整ということにもなるのである。」(1965年8月7ページ)

「人間の生命は常に生き生きと、明るく美しく愛し合い、調和そのもののひびきをたてつづけて、大宇宙に働きつづける本質をもっている。

その本質は神との一体化という、単純な行為によって現わされるのである。

その最も容易な方法が、ありとしあらゆる物事に対する感謝行なのである。ありがとうございますという一言は、祈りそのものでもあるのだ。

神を知るために、生命を汚さぬために何事にも感謝行をつづけるとよい。」(1969年11月3ページ)

「簡単に実行できる愛行、祈りの行をすることが一番いい。

それは何かというと、あらゆるものに感謝することである。

歩きながら大地さんありがとう。空気を吸うことのありがた

さ、太陽の照ってくれるありがたさ、水のありがたさ。それを

どうぞ、今日からでも一生懸命実行しよう。」(1971年1月

22ページ)

「宗教の道において終始必要なのは、感謝の心なのである。

神や、空気水等の自然現象、動植物、人々等あらゆるものに対

して、日々瞬々感謝の心を失わぬという事こそ、神との一体化をなし得る最大の行であり、人類進化の根源の心なのである。

感謝の心こそ光明であり愛であるのである。人類すべてが根本の心をこの感謝行においたならば、世界の平和は自ずから成り立つのである。

宗教の道を志さず者は、率先してこの感謝行に生きるべきで、その他のことは全て枝葉末節のこととも言えるのである。

宗教的な深い学問も様々な行もすべて、常にこの感謝の心が自ずと生まれ出でる境地になる為のものであり、そこから神の心の愛のひびきが、宇宙に溢れ出でるといふ事になるのである。」(1971年6月7ページ)

「神々の慈愛は、天となり、地となり、太陽となり、空気となり、水となって、人類をはじめあらゆる生物を発育生成させようとしている。

人間はそうした天地の大恩を忘れ果てている。人間はまず天地への感謝から、一日の行事を始めなければいけない。この新年の初めにも、まず天地への感謝の柏手をたたき平和の祈りをするのである。」(1975年1月3ページ)

「守護の神霊への日々の感謝、それに加えて自分を生かしてくれている、肉体すべての細胞に対する感謝、空気や水やその他自分たちに必要である自然の要素に対しての感謝等、よく落ちついて考えれば神々や自然や物事への感謝こそ、宗教精神の重大な要素といえるのである。」(1976年9月9ページ)

「太陽には太陽神があるように、地球には地球霊王が厳然として存在して、物質界を支配しているのである。例え一つの小さな物質といえど、地球界にあっては地球霊王のみ心が働かなくては、その存在が成り立たないのである。」

であるから人間がこの地球界において生きてゆくには、守護の神霊への感謝はもちろん、天地の恩恵に感謝しないではいられないわけなのである。」(1977年3月11ページ)

進化する感謝行

感謝という言葉は、国語辞書では、ありがたく思って礼をいうこと。心にありがたく感ずることと記載されています。

ありがたく思う対象は、人の価値観によって異なりますが、一般的には、自分の利害や感情にそい、自分の感情を喜ばすものに對してありがたく思うのではないのでしょうか。

私たちは、このような考え方から、五井先生のみ教えに触れ、次のような考え方に変わってきています。

それは、目の前に現れるものは、どんなに自分にとって不都合なことであっても、すべてありがたく受け入れるようになったのではないのでしょうか。これは、私たちがこの肉体界に生まれてきた目的を達成させるために、私たちの背後で守護の神霊が、私たちを迷わせる、過去世から現在に至るまでの誤てる想念を浄めるために現わし、大難を小難にして消してくださっているこ

とを理解できるようになったことによります。

しかし、いかなる感情も乗り超えて完全に受け入れるには、なかなか容易なことではありません。それは守護の神霊と一体となるには、それなりに祈りの実践練習が必要であるからです。その中で、すべてを感謝と喜びに変えてゆく感謝行はその大きな支えであったにちがいません。

恐縮ではありますが、私の体験から申し上げます。

天と地を結ぶ大きな光の柱を形成され、愛のひびきを放たれていた五井先生のご存命中を除き、私たちの祈りが最も深くなるもとなったのは、究極の光を降ろすご神事によって2010年私たちの第六(観智)のチャクラが開かれた時ではないのでしょうか。そして2015年宇宙神の根源に私たちの魂は直結し、天と地を結ぶ光の柱をそれぞれ形成できるようになりました。神聖復活の印により組めば誰でも可能になったと言えます。

この光に包まれて行う感謝行は、私たちを感謝と喜びに満たし、ハートから愛のひびきが溢れ出る創造主の分身としての意思を取り戻す大きな足掛かりになっているのではないのでしょうか。

自分の目の前に現れるものは、善かろうが悪かろうがすべて自分が創造したものという意識を受け入れ、この意識により、愛と平和を創造できるという自信を取り戻すのではないのでしょうか。